

中野区弥生町三丁目プロジェクト

空き地の新たな活用法の検討

活動地域

東京都中野区弥生町三丁目周辺地区

活動期間

2016年～継続中

活動体制

工学院大学野澤研究室
UR都市機構
川島商店街振興組合

活動キーワード

#木造密集市街地 #公共的空間利用
#商店街活性化 #防災 #災害対策

所属メンバー

B4 高橋颯太 中嶋美月 長谷川りり
西巻奈緒 増澤慧
守山真司 八木澤葵

B3 石月柊汰 井上沙宮良 今西堅斗
金田拓巳 岸川寛菜
近藤晃 芳澤翔太



プロジェクト概要

中野区弥生町三丁目の空き地活用の検討から始まったプロジェクト。UR都市機構、川島商店街振興組合の協力のもと、空き地の活用や木造密集市街地の対策として防災まちづくりに関する活動を行っている。近年では商店街の活性化や災害対策・防災などを目的とした活動が中心になっている。年3回程度のイベントの実施や、通年でのまちなか黒板の運営など多岐に渡る活動を行っている。多様な活動や多くの関係者との関わりを通して、空き地活用や防災に関する知識を得ることを目指している。



活動経緯

弥生町三丁目周辺の防災整備事業を行う際にUR都市機構が取得した従前前居住地の代替地(現在は不燃化促進用地として防災フェンスが設置されている)を対象に空間活用を行ってきた。これまでの活動は空き地空間の利活用を行ってきたが、安全上の理由から敷地の前面の利用に変更となった。2年前からからは「まちなか黒板」を敷地の前面に設置し自由な利用と学生側が仕掛ける複数のアクションを行っている。

これまでの活動

2016

対象地の特性を把握するための現地調査や、空地の活用方法を学習するための事例研究を行った。

2017

2022

商店街が主催したハロウィンや行灯祭への参加、謎解きまちあるき、まちなか黒板の活用など多くの活動を行った。

2023

まちなか黒板の活用や謎解きまちあるきなどの継続的な活動に加え、「ぼうさい夏市」に参加した。

活動の様子



今年度の活動内容

今年度は、昨年度に引き続き「謎解きまちあるき」の実施のほか、新たな試みとして「ぼうさい夏市」に参加した。「空き地の活用」や「交流の促進」というテーマに加え、「防災・災害対策」が大きなテーマとなった年度であった。それに伴い、例年以上に多くの人々と関わる1年であり、来年以降に向け、地域の人々や関係者との繋がりを強めることが出来た。

ぼうさい夏市への参加

UR都市機構、川島商店街をはじめ多くの共催・協力の元、「ぼうさい夏市」が開催された。開催場所の川島公園は、災害時の一時避難場所に指定されており、川島公園のマンホールトイレの紹介や起震車体験など、地域の防災意識を高めるイベントとなった。野澤研究室では、ダンボールベッド体験等を行うことで地域の防災意識の向上に繋がった。多くの人が集まるイベントとなり、学生目線でも防災の知見を得る貴重な体験となった。



謎解きまちあるきの開催

昨年に引き続き、謎解きまちあるきを開催した。謎解きを通して、商店街の人々との交流や地域の災害対策に触れていただき、商店街活性化や市民の防災意識の向上を目的とした。天候に恵まれなかったが、多くの人と関わる機会となった。



まちなか黒板リニューアル

1年ぶりにまちなか黒板のリニューアルを行った。表面の汚れや剥がれが目立っていたが、リニューアルによって活用の促進となった。子どもの落書き帳としての活用やイベントでの利用により、地域の人たちが交流するきっかけになりつつある。



来年度の活動予定

【ぼうさい春市の実施】

来年度の5月に「ぼうさい春市」を行う予定である。「ぼうさい夏市」で得た経験を活かし、地域住民の更なる防災意識の向上に繋げる。

【防災意識の向上】

能登半島地震を受け、地域住民の災害への警戒意識も高まりつつある。研究室としても、住民の防災意識の向上に貢献する1年にしたい。

【まちなか黒板の更なる活用】

地域住民の認知度も高まっている「まちなか黒板」であるが、更なる可能性を持っていると考えるため、活用法の再検討を行いたい。